

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども学科

科目名	憲 法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	憲法は「統治機構」と「人権」の2つの部分から成り、相互に密接に結びついている。憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構が作られているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。国家権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。さらに、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することが、この授業のテーマである。				
授業概要	日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関して判例・学説を基に様々な解釈を、統治機構に関しては条文を中心に解説をする。				
授業計画	1. 憲法と立憲主義・日本憲法史 2. 日本国憲法の構成と基本原理 3. 基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等 4. 精神的自由権 5. 身体的自由権 6. 経済的自由権 7. 社会権 8. 参政权と国務請求権 9. 統治機構の基本原理 10. 国会と立法権 11. 内閣と行政権 12. 裁判所と司法権 13. 財政 14. 地方自治 15. 憲法改正				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる) 成績評価: 国家の統治機構・三大基本原理(「国民主権」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」)の構及び日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解する科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「憲法」(配本テキスト) 参考書・参考資料等 テキストに示されている資料の他、「ポケット六法」「デイリー六法」「コンサイス六法」などの「六法」				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	情報リテラシーと処理技術	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。				
授業概要	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習する。				
授業計画	1.情報化社会 2.コンピュータの発展 3.ハードウェア 4.ソフトウェア 5.情報ネットワーク 6.インターネット 7.情報システムの課題 8.Windowsの基本操作 9.文書作成の基本①（書式設定） 10.文書作成の基本②（図形・表） 11.文書作成の基本③（ページ設定） 12.表計算の基本①（書式設定） 13.表計算の基本②（計算式・関数） 14.表計算の基本③（グラフ機能） 15.プレゼンテーションの基本				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：PC 実技や科目試験の結果により総合的に判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） ※科目試験 50%、実技 50%の平均により成績評価を行う				
使用テキスト等	「情報リテラシーと処理技術」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	システムエンジニア経験（5 年）、工学士、第 1 種情報処理技術者、システムアドミニストレータ 大学非常勤講師（3 年）（専門学校常勤講師（7 年） ※上記の経歴を持つ教員による授業で、PC の基礎知識と技能を身に付ける。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こども学概論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	人はみな「こども」として生きる時期を経て大人になり、また新たな世代の「こども」と共に生きている。そのような私たちにとって身近な存在である「こども」を説明するには、どのような視点がふさわしいであろうか。この授業は「こども」をより多面的にとらえることによって、「こども」に対する理解を深めることを目標とする。様々な時代・社会・文化における「こども」のあり方や「こども」のとらえられ方に注目し、養育者や保育者のあり方についても考察を加える。				
授業概要	こども学は、近年注目を浴びながら発展する学問である。これまで、医学・心理学・教育学・社会学・文化人類学など様々な学問領域において、「こども」を対象とする研究がそれぞれ進められてきた。しかし、本来「こども」はひとりの人間としてひとつの時代を生きる存在であるため、総体として理解される必要がある。そこでこの授業では、こども学の成り立ちを知り、諸々の学問領域に由来する「こども」に関する知見を統合することによって、「こども」の実像により近づくことを目指す。				
授業計画	1. こども学とは何か？ 2. こども観の歴史的変遷 3. 法律とこどもの権利 4. こどもの発達・成長 5. こどもの内なる世界、見る・感じる 6. こどもの障害・病理 7. 家族のあり方の多様化とこども 8. しつけと虐待 9. こどもの学びと教育 10. カウンセリングの基本 11. 医療・福祉領域におけるこどもへの取り組み 12. こどもを取り巻く環境としての現代社会 13. こどもとメディア 14. こどもをめぐる経済 15. さまざまな状況で生きる世界のこどもたち				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）				
使用テキスト等	「こども学概論」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説書」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	英語コミュニケーション	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	今日では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。 レポート: 平易な英語で書かれた物語および子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。 科目試験: 英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることができるとともに子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。				
授業概要	本テキストは3つの Chapter からなっている。Chapter1は基礎的な項目が中心で、基礎が理解できていない人はまず Chapter1を丁寧に学習して、英語の基礎を理解するよう努力する。英語の基礎に自信がある人は Chapter1にはあまり時間をかけずに Chapter2に進み、英語の理解を深める。Chapter3では、保育の現場でのさまざまな生活場면을題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。				
授業計画	Chapter1 1. 英語の文法(動詞、形容詞・副詞) 2. 英語の文法(比較、代名詞、疑問詞) 3. 英語の文法(進行形、完了形、受動態) Chapter2 4. 英語の基礎構文(5文型) 5. 英語の基礎構文(修飾語句) 6. 英語の基礎構文(接続詞、仮定法) Chapter3 7. 入園準備 8. 登園・降園 9. 室内遊び 10. 外遊び 11. 健康・病気・けが 12. 運動・お散歩 13. 食事 14. 工作・お絵かき 15. おたより・行事				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「英語コミュニケーション」(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	健康科学	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	健康は基本的には自分で管理・守るべきものである。近年、健康に関する情報が多く、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。健康の三本柱とストレス対処について学び、現在の自分の生活を見直すことが重要である。 本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになることを目的とする。 レポート:健康寿命とは、どのようなものか、自分の言葉で説明できるようになる。 科目試験:運動の基礎理論および体力を知ることにより、自ら健康な生活を送ることができるようになる。				
授業概要	健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。				
授業計画	1. 健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える 2. 運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ 3. 運動生理学 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める 4. 救命救急 救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方を学ぶ 5. 運動処方① 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ 6. 運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ 7. 健康日本 21 「健康日本 21」から自己の健康への課題を探る 8. 生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）				
使用テキスト等	「健康科学」(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	スポーツ(実技)	授業区分	実技	単位数	1
授業目標	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集团的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、ニュースポーツも体験・理解する。 スクーリング: バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・ニュースポーツなどを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになる。				
授業概要	各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。				
授業計画	1. ガイダンス 2. バレーボール①基本練習 3. バレーボール②応用練習 4. バレーボール③ゲーム・審判 5. 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス 6. バドミントン①基本練習 7. バドミントン②シングルのゲーム 8. バドミントン③ダブルスのゲーム 9. バスケットボール①基本練習・応用練習 10. バスケットボール②ゲーム・審判 11. 卓球①基本練習 12. 卓球②シングルのゲーム 13. 卓球③ダブルスのゲーム 14. ニュースポーツ学ぶ(ティーボールなど) 15. ウォーキングとその効果について				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「健康科学」(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	保育原理	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。				
授業概要	子どもをめぐる環境を踏まえながら、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保護者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追及する。				
授業計画	1 保育の理念と概念 2 子どもの最善の利益と保育 3 子ども家庭福祉と保育 4 保育の社会的役割と責任 5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令 6 子ども・子育て支援新制度 7 保育の実施体系 8 保育所保育指針 9 保育所保育に関する基本原則 10 保育における養護 11 保育の目標・内容 12 保育の環境・方法 13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環 14 日本・諸外国の保育の思想と歴史 15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題				
成績評価基準	成績評価：出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。せいせき				
使用テキスト等	「保育原理」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所保育士(24年)認定こども園園長(5年 現職) ※上記の経歴を持つ教員による授業で、保育の基礎的知識や歴史等、子ども、保護者、保育者の各視点から保育をとらえる授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	教育原理	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。 教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。				
授業概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。				
授業計画	1 教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性 2 世界の教育思想①ソクラテス〜ヘルソーの思想・実践 3 世界の教育思想②ヘルバルト〜デューイの思想・実践 4 日本の教育思想 5 子どもの発達と教育 6 子どもの権利 7 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園 8 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園 9 世界における教育の歴史的変遷 10日本における教育の歴史的変遷 11公教育制度、義務教育制度 12教師という仕事、教授法 13教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化 14教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング 15教育における今日的課題③学校外との連携				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「教育原理」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こども家庭福祉	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
授業概要	子ども家庭福祉の意義と歴史、権利擁護、それに係る法則や実施体系等について理解する。また、子ども家庭福祉の現状と課題について、少子化対策や虐待防止、貧困家庭や外国語の子どもや家庭への対応等の視点で理解する。				
業 計 画	1 子ども家庭福祉の理念と概念 2 子ども家庭福祉の歴史の変遷 3 現代社会と子ども家庭福祉 4 子どもの人権擁護の歴史の変遷 5 児童の権利に関する条約 6 子どもの人権擁護と現代社会における課題 7 子ども家庭福祉の制度と法体系 8 子ども家庭福祉行財政と実施機関 9 児童福祉施設等・子ども家庭福祉の専門職、実施者 10 少子化と地域子育て支援・母子保健と児童健全育成 11 多様な保育ニーズへの対応・児童虐待・ドメスティックバイオレンス 12 社会的養護・障害のある子ども・少年非行などへの対応 13 諸外国の動向・貧困家庭・外国につながる子どもとその家庭への支援 14 子ども家庭福祉の動向と展望 15 保育・教育・療育・保健・医療との連携ネットワーク				
成績評価基準	授業態度・出席状況・レポート提出・テスト等で、総合評価とする。				
使用テキスト等	「こども家庭福祉」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年) の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、子ども家庭福祉の歴史と現状、その対応についての授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	社会福祉論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。				
授業概要	保護者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について学びを深めながら、現代の社会福祉の動向、制度や関係機関の実施体系等についての把握に努める。併せて、社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解していく。				
授業計画	1 社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史的変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉行財政と実施機関 6 社会福祉施設 7 社会福祉の専門職 8 社会保障及び関連制度の概要 9 相談援助の理論、相談援助の意義と機能 10 相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術 11 情報提供と第三者評価 12 利用者の権利擁護と苦情解決 13 少子高齢化社会における子育て支援 共生社会の実現と障害者施策 14 在宅福祉の地域福祉の推進、諸外国の動向				
成績評価基準	授業態度・出席状況・レポート提出・テスト等で、総合評価とする。				
使用テキスト等	「社会福祉論」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年)、乳児院(21年)の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員による授業で、社会福祉の制度や体系、相談援助等について学習を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こども家庭支援論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	子ども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。				
授業概要	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。				
授業計画	1. 家族・家庭・世帯とは 2. 家族と家庭の形態と機能 3. ライフステージ 4. 社会環境の変化と現代の家庭 5. 現代の家庭と子育てをめぐむ問題 6. 要保護家庭の問題 7. 子育て家庭を支援する法・制度 8. 子育て家庭を支援する社会資源 9. 新たな子育て支援制度 10. 子育て家庭支援の体系 11. 保育者による家庭支援の原理 12. 保育所における子育て家庭支援 13. 地域における子育て家庭支援 14. 子ども家庭福祉の諸相 15. 要保護児童とその家庭に対する支援				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「こども家庭支援論」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年) の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、子育て支援の現状、その対応についての授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	社会的養護Ⅰ	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。																				
授業概要	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷や社会的養護に係る法制、仕組、実施体系について理解する。 また、家庭養護や施設養護の対象や専門職、施設等の現状や課題を理解する。																				
	<table><tr><td>1 社会的養護の理念と概念</td><td>9 家庭養護と実施養護</td></tr><tr><td>2 社会的養護の歴史の変遷</td><td>10 社会的養護に関わる専門職</td></tr><tr><td>3 子どもの人権擁護と社会的養護</td><td>11 社会的養護に関わる社会的状況</td></tr><tr><td>4 社会的養護の基本原則</td><td>12 施設等の運営管理</td></tr><tr><td>5 社会的養護における保育士等の倫理と責務</td><td>13 被措置児童等の虐待防止</td></tr><tr><td>6 社会的養護の制度と法体系</td><td>14 社会的養護と地域福祉</td></tr><tr><td>7 社会的養護の仕組みと実施体系</td><td>15 今後の課題(施設養護のあり方)</td></tr><tr><td>8 社会的養護の対象</td><td></td></tr></table>					1 社会的養護の理念と概念	9 家庭養護と実施養護	2 社会的養護の歴史の変遷	10 社会的養護に関わる専門職	3 子どもの人権擁護と社会的養護	11 社会的養護に関わる社会的状況	4 社会的養護の基本原則	12 施設等の運営管理	5 社会的養護における保育士等の倫理と責務	13 被措置児童等の虐待防止	6 社会的養護の制度と法体系	14 社会的養護と地域福祉	7 社会的養護の仕組みと実施体系	15 今後の課題(施設養護のあり方)	8 社会的養護の対象	
1 社会的養護の理念と概念	9 家庭養護と実施養護																				
2 社会的養護の歴史の変遷	10 社会的養護に関わる専門職																				
3 子どもの人権擁護と社会的養護	11 社会的養護に関わる社会的状況																				
4 社会的養護の基本原則	12 施設等の運営管理																				
5 社会的養護における保育士等の倫理と責務	13 被措置児童等の虐待防止																				
6 社会的養護の制度と法体系	14 社会的養護と地域福祉																				
7 社会的養護の仕組みと実施体系	15 今後の課題(施設養護のあり方)																				
8 社会的養護の対象																					
成績評価基準	出席状況、授業態度、試験、レポート内容等を総合的に評価する。																				
使用テキスト等	「社会的養護Ⅰ」(配本テキスト)																				
実務経験がある教員による授業科目	重度身障者入所授産施設指導員(3年)、乳児院(指導員8年、副院長歴5年、院長15年、会長6年) ※上記の経験を持つ教員により、社会的養護に関わる理解と相談援助の方法、家庭支援等に関する授業を行う。																				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	教職論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職(保育)の意義、教職者(保育者)の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。さらに、教職(保育)は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育(保育)への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育(保育)のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図る。				
授業概要	本授業は望ましい教職者(保育者)とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。				
授業計画	1. 教職(保育)の意義・定義・教職(保育)者とは何か 2. 教職(保育)者に求められる資質・能力 3. 教員(保育者)養成の歴史 4. 教職(保育)者の資質と役割 5. 指導計画(保育のねらい・内容) 6. 教職(保育)者の仕事・義務・研修 7. 教職(保育)者の職場環境 8. 教職者の制度的な位置付け 9. 教職者の任用と服務 10. 教育(保育)現場におけるこどもとの関わり(あそび・環境) 11. 教育(保育)現場における家庭との連携・支援、地域との連携 12. 教職(保育)観の変遷と教員(保育者)の役割 13. 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携(接続カリキュラム) 14. 今日的な教育課題に対応するために(「チーム学校」等) 15. よい教職者(保育者)になるために(教育実習への心構え)				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる) 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「教職論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員(教諭・校長 通算33年) 教育センター指導主事(5年) 幼稚園長(3年) ※上記の経験を持つ教員により、教職(保育)者に求められる資質能力、制度的な位置づけ、教育(保育)現場での役割等について学ぶ。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	発達心理学	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。				
授業概要	子どもの発達に関わる心理学の基礎を修得し、保育の基本となる子どもへの理解を深める。また、乳幼児の学びの過程や特性に係る基礎的な知識を修得し、保育における人との関わりや体験、環境の意義を理解する。				
授業計画	1 子どもの発達を理解することの意義 9 人との相互的かかわりと子どもの発達 2 子どもの発達と環境 10 発達課題と発達援助 3 発達理論と子ども観・保育観 11 乳幼児期の学びに係る理論 4 社会情動的発達(乳児期～幼児前期) 12 学びの過程と特性(乳児期～幼児前期) 5 社会情動的発達(幼児後期～児童期) 13 学びの過程と特性(幼児後期～児童期) 6 身体機能と運動機能の発達 14 乳幼児期の学びを支える保育 7 認知の発達 15 発達障害の理解と対応 8 言語の発達				
成績評価基準	出席状況・授業態度・レポート課題の内容・科目試験等を総合的に評価する。 (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「発達心理学」(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの発達と家庭支援	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
授業概要	生涯発達に関する心理学の基礎を習得するとともに、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等を発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を身に付ける。併せて子育て家庭に係る課題を理解する。				
授業計画	1 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 2 学童期後期から青年期にかけての発達 3 成人期・老年期における発達 4 家族・家庭の理解 5 家族・家庭の意義と機能 6 親子関係・家族関係の理解 7 子育ての経験と親としての育ち 8 子育て家庭に関する現状と課題 9 子育てを取り巻く社会的状況 10 ライフコースと仕事・子育て 11 多様な家庭とその理解 12 特別な配慮を要する家庭 13 子どもの精神保健とその課題 14 子どもの生活・生育環境とその影響 15 子どもの心の健康に関わる問題				
成績評価基準	授業態度・出席状況・レポート課題の内容・科目試験等で、総合評価とする。 （評価はルーブリック評価を用い行う）				
使用テキスト等	「こどもの発達と家庭支援」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの理解と援助	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育者には、子どもを理解したうえでの援助が求められる。本授業科目では、子ども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。				
授業概要	授業計画の1～8では以下のことを習得することを目指す。 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				
授業計画	1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握① (1) 保育における子どもの理解の意義 (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 2. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握② (1) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 3. 子どもを理解する視点① (1) 子どもの生活や遊び (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (3) 子ども相互の関わりと関係づくり (4) 集団における経験と育ち 4. 子どもを理解する視点② (1) 葛藤やつまずき (2) 保育の環境の理解と構成 (3) 環境の変化や移行 5. 子どもを理解する方法① (1) 観察 (2) 記録 6. 子どもを理解する方法② (1) 省察・評価 (2) 職員間の対話 (3) 保護者との情報の共有 7. 子どもの理解に基づく発達援助① (1) 発達の課題に応じた援助と関わり (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 8. 子どもの理解に基づく発達援助② (1) 発達の連続性と就学への支援				
成績評価基準	受講態度やレポート課題提出状況・単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの保健	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	望ましい保育者となるために、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解するとともに健康増進を図る保健活動の意義を理解する。併せて子どもの身体的な発育・発達と保健、子どもの疾病とその予防法を理解し、他職種間の連携・協働のもとで適切な対応について理解する。				
授業概要	①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。 ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び、適切な対応について理解する。 ③子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。				
授業計画表	1 子どもの心身の健康と保健の意義 2 子どもの健康に関する現状と課題 3 地域における保健活動 4 子どもの身体的発育・発達と保健 5 子どもの健康状態とその把握 6 子どもの保育環境と養護 7 子どもの疾病と予防及び適切な対応①:症状別対応 8 子どもの疾病と予防及び適切な対応②:感染症、感染症の予防 9 子どものアレルギー疾患 10 子どもの虐待防止 11 急病時、傷害時における応急処置 12 保育における健康・安全管理 13 慢性疾患や障害のある子どもの保育と対応 14 保護者への子育て支援と地域の関係機関との連携 15 学生自身のリフレクション				
成績評価基準	レポート課題・科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「こどもの保健」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭(38年) ※上記の経験を持つ教員により、保健活動の意義や発育、発達によるこどもの健康状態の把握、また子どもの疾病と予防などを学ぶ。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの食と栄養	授業区分	演習 講義	単位数	2																
授業目標	ヒトが人間らしく生きていくために何をどのように食べるべきなのかという基本を理解し、それをどのような具体的な形で、こどもたちに伝えていくのかということ理解し考える。 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。 2. こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義実践について理解する。 3. 食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解し、食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、それを活かして活用するための力をつける。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。																				
授業概要	1. レポート課題・単位認定試験出題課題を中心に、テキスト・参考図書だけではなくより広い視点からこどもの食と栄養について深く理解する。 2. スクーリングを通して学習成果に対する学習の理解を深め、実践力をつける。 3. 普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、質問用紙等を活用して向上心を持って高い資質を身につける。																				
授業計画	<table><tr><td>1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解</td><td>8. 栄養の基本的概念と栄養素についての理解</td></tr><tr><td>2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解</td><td>9. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解</td></tr><tr><td>3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解</td><td>10. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期</td></tr><tr><td>4. こどもの食生活の現状と課題についての理解</td><td>11. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期</td></tr><tr><td>5. 食育実践のための基礎知識</td><td>12. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期</td></tr><tr><td>6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備</td><td>13. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容</td></tr><tr><td>7. 特別な配慮を要するこどもへの対応</td><td>14. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法</td></tr><tr><td></td><td>15. 特別な配慮を要するこどもへの支援</td></tr></table>					1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解	8. 栄養の基本的概念と栄養素についての理解	2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解	9. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解	3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解	10. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期	4. こどもの食生活の現状と課題についての理解	11. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期	5. 食育実践のための基礎知識	12. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期	6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備	13. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容	7. 特別な配慮を要するこどもへの対応	14. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法		15. 特別な配慮を要するこどもへの支援
1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解	8. 栄養の基本的概念と栄養素についての理解																				
2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解	9. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解																				
3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解	10. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期																				
4. こどもの食生活の現状と課題についての理解	11. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期																				
5. 食育実践のための基礎知識	12. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期																				
6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備	13. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容																				
7. 特別な配慮を要するこどもへの対応	14. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法																				
	15. 特別な配慮を要するこどもへの支援																				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） 成績評価:受講態度や科目試験の結果により総合的に判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）																				
使用テキスト等	「こどもの食と栄養」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)																				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年)、病院・乳児院(栄養士通算29年)の勤務歴。 保育士6年、 ※上記の経験を持つ教員により、こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義・実践、食育を行うための基礎知識や食育を行うための地域社会との関わり等について学ぶ。																				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	教育課程論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する。 2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、意義や方法を具体的に習得する。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程についてその全体像を能動的にとらえ、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。 4. 保護者や関係機関との連携について学ぶ。				
授業概要	幼児、こどもを育てる上で、大切なこと(目標)、どのような方法・手立て(方針)、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。				
授業計画	1. 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方、意義と必要性 2. カリキュラムの基礎理論 3. 日本における教育課程・各国の教育課程の変遷 4. 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方、編成と評価 5. 教育課程の法と行政 6. 学習指導要領の変遷とその特色 7. 園生活と長期・短期の指導計画 8. 教育課程・保育課程編成の実際 9. 保育の基本と実践(記録及び省察による教育・保育の質向上) 10. 学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム 11. 明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史 12. 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性 13. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷 14. 教育課程をめぐる諸問題 15. 信頼される園づくりと学校評議員制度				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する 評価はルーブリック評価を用い行う 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「教育課程論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	保育内容総論	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。				
授業概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。				
授業計画	1. 保育の全体的構造 ①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 ②領域の考え方と乳児保育の領域 2. 保育内容の歴史的変遷 ①変遷にみる特徴 ②変遷にみる課題 3. 養護と教育の一体的展開 ①養護的なかかわりと教育的なかかわり 4. 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 ②保幼小の円滑な連携 5. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ①環境を通して行う保育 ②遊びによる総合的な保育 6. 全体的な計画の作成と指導計画の作成 ①全体的な計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮 7. 保育の評価と保育の記録 ①幼児理解に基づく評価 ②観察記録を書く意味と幼児理解 8. 保育内容の現代的課題について ①子育て支援 ②多文化共生保育				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「保育内容総論」(最新版) (配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版) (フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの指導法「健康」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場で子どもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容についていかに指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、子どもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。 乳幼児の健康づくりに関わる重要な要素について理解し、計画性を持って保育現場で応用ができるような知識・知力を養うことを目標とする。				
授業概要	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康づくり指導を目指す。				
授業計画	1. 領域「健康」の意味(保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解)、保育の意義と児童観 ・こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」 2. 乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 ・発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本 3. 子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン・子どもの健康と虐待 4. 基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点 ・食育に関する指導案作成と幼児の健康 5. 子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 ・発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解 6. 安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練 ・情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解 7. 健康と自然環境、園外保育の活動内容 ・園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解 8. 保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。 (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの指導法「人間関係」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションがなされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動することや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。 1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できる。 2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。 3. 養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。				
授業概要	こどもを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。 また、保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係性について考察していく。				
授業計画	1. 領域「人間関係」 ・ねらいと内容及びその取扱い ・保育者としての役割 2. 保育者としての環境作りと評価 ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む） ・保育構想と指導案（模擬保育） 3. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助① ・対人意識、自己概念の発達 ・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫 4. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助② ・個と集団の育ちの姿 ・こどもの心の拠り所である保育者の工夫 5. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③ ・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 ・集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫 6. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ ・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点 7. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤ ・こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割 ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育） 8. 地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）				
成績評価基準	成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの指導法「環境」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解する。 2. こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。 3. 保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。				
授業概要	こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を挙げて学習していく。また、グループ学習を含め、視聴覚機材を使用し、より深く学んでいく。				
授業計画	1. 環境とは (1)環境の定義 (2)環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ (1)ねらいと内容 (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 3. 身近な環境の構成(指導案の構成と作成) (1)指導案の作成による人的環境・物的環境の理解 (2)視聴覚教材を利用した自然環境、社会・文化環境の理解 4. 保育における環境の重要性と小学校との連続性 (1)好奇心・探究心 (2)思考力の芽生え 5. 保育環境のデザイン (1)視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解 (2)指導案作成(実際の指導案作成とデザインを図示指導)と模擬保育の振り返りによる保育環境理解 6. 保育者の3つの役割 7. さまざまな環境との出会い (1)標識・文字との出会い (2)数量と図形・ものの性質との出会い 8. こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題(小学校との連携等)				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの指導法「言葉」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1. 乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。 3. 言葉遊び(わたべうた・なぞなぞ等)、文字体験(カルタ・標識・ごっこ遊び)等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイメージーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。 5. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、年齢別のコミュニケーションを図ることができるようになる。 6. こどもが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解する。 7. 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。 8. こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方認識できるようになる。 9. 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解する。				
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。				
授業計画	1. 幼児教育と言葉 ・言葉とは何か・生活と言葉(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 ・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 3. 言葉を豊かに育む活動(1) ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育 4. 言葉を豊かに育む活動(2) ・言葉から文字へ、文字による環境 ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作(情報機器活用及び教材の活用)及び模擬保育体験 5. 保育者と言葉のあり方 ・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 ・外国のこどもとの対応 6. 言葉を豊かに育む活動(3) ・言語教材としての絵本の意義 ・絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成 7. 言葉を豊かに育む活動(4) ・絵本、お話等の指導法と情報機器の利用 ・絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育 8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの指導法「造形表現」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。				
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。				
授業計画	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領） 2. 形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴 3. こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価 4. 教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく） 5. 教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる） 6. 教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび） 7. 実践的な指導法（模擬保育等）の学習（えがく・つくる・造形あそび） 8. えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）と情報機器及び教材の活用 まとめ				
成績評価基準	成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「造形表現論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの指導法「音楽表現」	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。 感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに、音楽表現活動に必要な知識を習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。				
授業概要	領域「表現」は、幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。				
授業計画	1. 領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解、表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践 2. 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解と表現活動における伴奏の方法と実践 3. 身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法、サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法 4. 声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法 5. 映像を活用した 0、1、2 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 6. 映像を活用した 3、4、5 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践、乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法 7. 「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践と指導法 8. 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 9. 指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究 10. 指導案作成における環境構成及び保育者の援助の確認と模擬保育の留意点 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践 11. 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践 12. 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議、弾き歌いと伴奏法の実践 13. 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議、弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践 14. ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 15. 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ				
成績評価基準	科目の成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「こどもと音楽表現」（配本テキスト） 「音楽表現論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				
実務経験がある教員による授業科目	幼児リトミック指導（通算11年）、米国にてリトミック・ソルフェージュ・合唱指導（7年）小学校合唱部指導（2年） ※上記の経験を持つ教員により、領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに、音楽表現活動に必要な知識と実践力を高める授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもと造形	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。 《学習成果》 1.乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。 2.えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 3.教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。				
授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。				
授業計画	1. 幼児造形教育の重要性と研究の視点について 2. 幼児造形(表現)の特徴・領域・道筋について 3. えがく領域に伴う製作Ⅰ(えがく活動における指導・援助と実際) 4. つくる領域に伴う製作Ⅱ(つくる活動における指導・援助と実際) 5. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ(造形遊びにおける指導・援助と実際) 6. 作品の研究及び発表 7. 幼児造形教育の課題について 8. まとめ				
成績評価基準	成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する 評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「造形表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	表現とこどもの運動	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	こども達が自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解し、その手立てを身に付ける。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを、発達段階に沿って展開させることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める。				
授業概要	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。				
授業計画	- 社会的背景を考慮しつつ - 運動遊びのねらい - 運動遊びの援助について（個別の支援計画等） - こどもの発達と運動について - 身体・形態・機能・こころの発達発達 - こどもと運動 - 運動遊びの基本的な動き - 基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登） - 運動表現の要素（調整力：身体認知・空間認知） - 身体コントロール能力の向上 - 調整力中心の体づくり運動 - 音・色などの刺激に対応する運動 - こどもの表現運動Ⅰ - 表現運動実施の教育的意義 - 身体表現運動とは - こどもの表現運動Ⅱ - 身体表現運動のねらい - 実施上の留意点 - 発達段階と表現運動の実践（表現運動遊びの実践） - 年齢別発達における表現遊び（表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等）				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「表現とこどもの運動」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	乳幼児保育 I	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 乳児保育の意義、目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
授業概要	乳児保育の意義と目的、歴史的変遷及び役割、現状と課題について理解する。 また、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、運営体制、職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
授業計画表	1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働				
成績評価基準	出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。				
使用テキスト等	「乳幼児保育 I」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年)の勤務歴、社会福祉士の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、乳児保育の意義と目的、及び3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、保護者や関係機関との連携等について授業する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	乳幼児保育Ⅱ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1. 3 歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳幼児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。				
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。				
授業計画	1. 子どもと保育士等との関係の重要性 2. 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 3. 子どもの 1 日の生活の流れと保育の環境 4. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活の援助の実践 5. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 6. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 7. 集団生活における配慮 8. 乳幼児保育における指導計画				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「乳幼児保育Ⅰ」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年)の勤務歴、社会福祉士の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、3歳未満児の発育や発達を踏まえた生活と遊び、養護の視点からの配慮等について授業する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの健康と安全	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	最近のデータや関連するガイドライン等を通して、こどもの健康・安全にかかわる保健的対応を学び、発達等に即した適切な具体的援助を学ぶ。 演習を通して、実践力を高め、具体的な対応や援助方法が保育現場で活かせるようにする。				
授業概要	1. 現代社会における子どもの健康問題や地域保健活動について理解する。 2. 保育現場における感染症・事故防止・安全対策・危機管理・災害管理について具体的に理解する。 3. 年齢に即した対応が出来るよう演習を通して身につける。				
授業計画	1. 子どもの保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 ①近年の子どもの健康と保育環境 ②集団全体(施設等)の健康及び安全管理 2. 保育における感染症対策 ①子どもの感染症発生時とり患後の対応 ②保育園での集団発生の予防 ③家庭・関係機関などとの連携 3. 保育における健康・安全の危機管理 ①衛生管理 ②事故防止・安全対策 ③災害時の備え 4. 子どもの病気とその予防、適切な対応 ①体調不良や傷害が発生したときの対応 ②応急処置 ③救急処置・救急蘇生法 5. 個別的な配慮を要する子どもへの対応 ①慢性疾患・アレルギー性疾患など ②障害のある子どもへの対応 6. 健康管理・安全管理の連携の必要性 ①職員間の連携・協働と組織的取り組み ②家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携 ③母子保健・小児保健・地域保健における自治体との連携 7. 保育における保健活動の計画および評価 8. 学生自らのリフレクション				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭(38年) ※上記の経験を持つ教員により、ガイドライン等を通して、こどもの健康・安全にかかわる保健的対応を学び、発達等に即した適切な具体的援助を学ぶ。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	障害児保育	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する 3. 障がいその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する 4. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する 5. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する				
授業概要	個々の障がい特性を理解し、障がい児だけでなく、統合保育の視点で、保育者として必要な力を身に着ける。				
授業計画	1. 障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷 2. 障がいのある子どもとの統合保育と地域社会への参加 3. 差別解消と合理的配慮 4. 身体障がい児の理解と支援 5. 知的、発達障がい児の理解と支援 6. その他の障がい児の理解と支援 7. 支援体制の構築（職員間、家族、地域社会、子ども同士） 8. 障がい児のコミュニケーション 9. 障がい児と遊ぶ1 10. 障がい児と遊ぶ2 11. 障がい児保育の健康と安全 12. 統合保育の活動 13. 支援体制づくりのために 14. 障がい児の支援計画 15. 障がい児保育の現状と課題				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価:受講態度、科目試験の結果により総合的に判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「障害児保育」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	臨床心理士の資格を有し、病院(心理部主任5年)、大学教官(助手・講師・助教授・教授通算41年)の勤務歴をもち、長年障がい児の療育に携わる経歴を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、障がいの特性や障がいをもつ子どもの理解と支援について理解し、保育者として必要な力を身に着ける授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	社会的養護Ⅱ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する スクリーニング:社会的養護の対象の子どもを理解し、その困難を共に支えるための技術、知識、価値観を身に着ける。				
授業概要	体験的な授業で、コミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術と、ネットワーク運営のための技術を身に着ける。				
授業計画	1. 社会的養護の子どもの理解 2. 自立支援 3. 相談援助の知識と技術1(コミュニケーション) 4. 相談援助の知識と技術2(リーダーシップ) 5. 相談援助の知識と技術3(コーチング) 6. ネットワークの知識と技術1(ディスカッション) 7. ネットワークの知識と技術2(チームビルディング) 8. 社会的養護の課題と展望				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	重度身障者入所授産施設指導員(3年)、乳児院(指導員8年、副院長歴5年、院長15年、会長6年) ※上記の経験を持つ教員により、社会的養護に関わる理解と相談援助の方法、家庭支援等に関する授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	子育て支援	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供・行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。 スクーリング:子育て支援の実施について事例を通して具体的に理解する。保育相談支援の基本を学ぶ。				
授業概要	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。				
授業計画	1. 保育所の特性を生かした子育て支援 2. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 3. 保育所を利用している保護者に対する子育て支援 4. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 5. 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 6. 地域の子育て家庭に対する支援 7. 子どもの虐待の予防と対応 8. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解				
成績評価基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	保育実習 I（保育所・施設）	授業区分	実習	単位数	4
授業目標	初めての保育所実習、施設実習に対応できるように正しい知識や、実習態度を養い、保育の現場を体験して、子どもの姿や環境、保育士の仕事について理解する。見学、観察実習、参加実習、部分実習を通して、こども理解に努め、保育の全般について理解をする。乳幼児の発達についてより良く理解する。				
授業概要	保育所実習・施設実習				
授業計画	実習期間 保育実習 I : 1月末～2月初め（10 日間） 施設実習 : 9 月～10 月（10 日間） 実習内容 観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習評価表、実習態度等総合的に評価をおこなう。				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 参考書・参考資料等随時資料配布				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	保育実習指導 I	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。 2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。 ①実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)を学ぶ。 ②社会人のマナーや、ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性を知る。 3. 実習の目標・実習課題を学ぶ。 ①実習課題の設定の仕方を学ぶ ②指導案の意味と立て方を学ぶ ③実習日誌の書き方を学ぶ 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。				
授業概要	実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得えをテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。(演習)保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。				
授業計画	1. 実習の意義・目的を理解する 2. 保育所とは何か、その現状と課題 3. 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 4. 保育所の職場構成と連携 5. 社会人のマナー「報告・連絡・相談」の重要性 6. 乳幼児の年齢別発達の特徴 7. 緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について 8. 実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何か 9. 実習日誌の書き方・保育指導案の立て方 10. 保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等 11. 児童福祉施設の種別および特徴 12. 社会的養護の原理・原則および支援について 13. プライバシーの保護と守秘義務 14. 児童福祉施設その他職種および他機関との連携の仕方 15. 事後学習 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼稚園教諭(6年)、保育所保育士(13年)、幼保連携型認定こども園(主幹教諭・副園長通算5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行い、保育実習の意義・目的理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもとより、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども学科

科目名	保育・教職実践演習	授業区分	講義 演習	単位数	2
授業目標	授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。				
授業概要	これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。				
授業計画	1. 教師という職業 2. 学級経営 3. 特別支援教育の基礎 4. 特別支援教育と教師・保育者 5. 保育における集団の編成 6. 幼児教育の将来的展望 7. 幼保小連携 8. ガイダンス 9. 学級経営における臨床場面での教師の対応 I (ロールプレイング) 10. 保育場面での対応 (事例研究) 課題のある子ども (幼児) の事例研究 11. 集団討論 I 「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」 12. 保育計画と模擬保育 13. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望 14. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方 15. 学習のまとめ・自己の振り返り・今後に向けての課題				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる) 成績評価: 集団討論や科目試験の結果により総合的に判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる) ※科目試験 50%、実技 50%の平均により成績評価を行う				
使用テキスト等	「保育・教職実践演習」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版) (フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	教育方法論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	授業のテーマおよび学習成果 教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。				
授業概要	教育方法の定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察する。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討する。				
授業計画	1. 教育方法の定義・意義と守備範囲 2. 教育方法の歴史的展開1（西欧の教育方法） 3. 教育方法の歴史的展開2（近・現代の教育方法） 4. 教育方法の歴史的展開3（日本の教育方法） 5. 教育技術の革新と情報機器の活用 6. 教材・教具の理解と活用 7. 特色ある授業実践 8. 教育現場における授業技術 9. 授業分析と授業評価 10. 授業展開の構想 11. 幼児の理解と幼児教育（保育）の方法（生徒指導との関係も踏まえて） 12. 近代以降の幼児教育（保育）方法 13. 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 14. 幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容 15. 教育方法の課題と展望				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いて行う） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いて行う）				
使用テキスト等	「教育方法論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領（解説書含む）」				
実務経験がある教員による授業科目	小学校勤務（教諭・教頭・校長 通算29年）、文部教官（6年）、教育センター（指導主事・主任主事通算5年） ※上記の経験を持つ教員により教育方法の定義と意義、学習指導の理論と授業の方法、および評価等について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの理解と相談支援	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学ぶ。また、その対応の一つの幼児教育現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指す。個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指し、この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。				
授業概要	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める				
授業計画	1. こどもの実態に応じた発達や学びの把握 2. 相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本とカウンセリングの基本的な方法 3. こどもを理解する視点① （こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験） 4. こどもを理解する視点② （葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行） 5. こどもを理解する方法① （知能検査・発達検査・行動観察法、他） 6. こどもを理解する方法② （観察・記録・省察・評価） 7. こどもを理解する方法③ （職員間の情報共有、保護者との情報共有） 8. こどもの自己理解を進める技法 9. 幼児・こども理解とカウンセリング・マインド 10. 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援 11. 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援 12. 相談支援の実際① （発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち） 13. 相談支援の実際② （不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント） 14. 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援（幼・小の連携、親との連携） 15. 相談支援の課題と対応 （教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成）				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）				
使用テキスト等	「こどもの理解と相談支援」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領」及び「小学校学習指導要領解説書」				
実務経験がある教員による授業科目	相談員・カウンセラー（30年） 小学校・大学・専門学校講師（通算32年） ※上記の経験を持つ教員により、相談支援の基本、子ども理解の視点と方法、幼稚園や小学校における子どもへの心理的援助や保護者支援に関する授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	言葉とこどもの文化	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	本授業は、保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財がこどものことばの習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし等の児童文化財を利用した言葉の理解を目的とする。				
授業概要	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究をととして、その利用の仕方について理解する。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深める。				
授業計画	1. ことばの機能と言葉の発達 ・人間とことば、幼児とことば ・乳幼児期のことばの発達と保育者の役割 2. 領域〈言葉〉のねらい及び内容 ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領 3. ことばを育てる児童文化財① ・児童文化財とは ・絵本 4. ことばを育てる児童文化財② ・紙芝居 ・おはなし 5. ことばを育てる児童文化財③ ・ペープサート ・シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど） 6. ことばを育てる児童文化財④ ・ことばに対する感覚を養う児童文化財 ・わらべうたあそび、ことばあそび 7. ことばを育む教材 ・ことばを育む教材の範囲 ・ことばを育む教材研究 8. 保幼小連携について				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「言葉とこどもの文化」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	特別支援教育	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	特別な教育的ニーズを有する子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。				
授業概要	特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解するのはもちろん、子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。				
授業計画	1. 特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程 ①特別な教育的ニーズとは何か②特別支援教育課程と学びの場 2. 発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性 ①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち②子供一人ひとりのニーズに合わせた学び 3. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子供の特性 ①多様な子供のニーズの理解②多様な子供の学びと生活 4. 子供のニーズに合わせた支援 ①教育課程における支援②通常学級における担任による支援 5. 教育チームによる組織的支援 ①個別の指導計画及び個別の教育支援計画②アセスメントに基づく計画と評価 6. 特別支援教育コーディネーター ①特別支援教育コーディネーターの役割②外部教育資源との連携と協働 7. 保護者・家庭支援と連携 ①保護者・家庭をとりまく問題②保護者・家庭とのつながりの重要性 8. 特別な教育的ニーズを考える ①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（ルーブリック評価を用いて行う） 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（ルーブリック評価を用いて行う）				
使用テキスト等	「特別支援教育」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども学科

科目名	教育心理学	授業区分	講義 演習	単位数	2
授業目標	教育心理学は、教育と乳幼児期から青年期における人の発達について心理学的に理解していく学問である。本講義では、発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える動機付け、指導方法と実践活動について学びを進めていく。取り囲む人的物理的な環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。				
授業概要	教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達の特徴や遊びを通した変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。				
(授 業 計 画	1. 教育心理学を学ぶ意義 ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定 ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義 2. 発達の考え方とその理解 ①生涯発達心理学の概念 ②各段階における発達の特徴(運動、言語、認知、社会発達) 3. 学習の仕組み ①連合説と認知説 ②様々な学習理論の応用 4. 主体的な学習を支える「やる気」 ①内発的動機付けと外発的動機付け ②学習性無力感と自己効力感 5. 集団での学習とその評価 ①学習指導の形態 ②評価の仕方とその意義 6. 動機付けからみる発見学習の仕組み ①発見学習の手続き ②発見学習により動機付けが高まる理由 7. 教育心理学に基づく保育実践 8. 発達課題に応じたかかわり ①各段階の発達の特徴 ②エリクソンの発達課題 9. 子どもから大人への思考様式の変化 ①ピアジェの認知発達理論 ②思考発達段階ごとの特徴 10. 学習を支える記憶 ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ②単純記憶から複雑記憶への変化 11. 子どもの学びの姿 ①日常生活からみる学習理論 ②オペラント条件付けを利用した保育実践 12. 子どものやる気を引き出す指導の在り方 ①指導者の態度(ピグマリオン効果) ②様々な学習形態とその効果 13. 子どもの遊びの重要性 ①遊びの変化 ②遊びを通した社会性の発達 14. 子どもと道徳 ①幼児期に迎える第一次反抗期と自立 ②道徳の指導方法 15. 教育心理学を用いた環境づくり				
成績評価 基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる) 成績評価: 制作や授業態度、科目試験の結果により総合的に判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「教育心理学」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの指導法「リズム表現」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。 表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。 保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域、造形表現的領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も合わせて習得する。				
授業概要	幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく				
授業計画	- 領域「表現」についての基本的な考え方 ① 幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察 ② 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価 - 基礎リズム ① 歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点 ② 幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解 - 基本動作 ① 幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践 ② 観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践 - タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 ① 童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振り付けの実践 - 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 ① 楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用 ② オリジナル楽器を使った指導案の作成 - 領域「表現」と小学校教科等のつながり ① オノマトペ(擬態語・擬音語・擬声語)の表現方法について ② 領域「表現」と小学校教科等とのつながり - 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り ① 絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 - リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り ① 幼児の表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作 ② 創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼児リトミック指導(通算11年)、米国にてリトミック・ソルフェージュ・合唱指導(7年) ※上記の経験を持つ教員により、領域「表現」における表現遊びを展開するために必要な知識や技術を理解し、保育指導法を修得していく授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	人間関係論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。				
授業概要	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。				
授業計画	- 領域「人間関係」 - ねらいと内容 - 領域の相補性（保育活動の総合性とは） - 人間関係と取り巻く社会環境① - 少子高齢化 - 家族の変化 - 人間関係と取り巻く社会環境② - 身近な環境の変容 - メディアの変化 - 人間関係をつむぐこどもの発達 - 規範意識と道徳性の芽生え（育ち） - ルール、決まり事の意味と意義 - 人間関係をつむぐこどもの発達 - 自立心、協同性の芽生え（育ち） - 自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち） - 人間関係とこどもの遊び - 遊びの中で育つ乳児の人間関係 - 遊びの中で育つ幼児の人間関係 - 人間関係とこどもの生活 - 家庭とのかかわりとこどもの発達 - 地域とのかかわりとこどもの発達 - 今日的な人間関係の課題（多様な文化のこどもと気に留めたいこども）				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。（ルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。（ルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「人間関係論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	環境論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	1. 乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考える 2. 環境を通して行う保育の意味を知る 3. 保育環境のデザインを実践できる 4. 様々な環境との出会いを理解する				
授業概要	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、それらとこどもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要がある。そのために様々な環境との出会いに気づき、それについて深く学ぶ。				
授業計画	1. 環境の定義 ①環境という言葉、環境の定義 ②環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ ①ねらい・内容 ②内容の取扱・指導計画 3. 保育における環境(保育と環境) ①人的環境・物的環境 ②自然環境、社会・文化環境 4. 幼児の身近な環境との関わり ①室内・室外 ②文字・標識・数量・図形 5. 行事 ①季節の行事 ②地域の行事 6. 地域・施設との関わり ①各施設の訪問 ②国際理解 7. 地域探検 ①住んでいる町を知ろう 8. 保育者としての専門性の向上 ①専門性の向上 ②保育マインドの向上				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「環境論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	健 康 論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	領域「健康」の指導に関する乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての理論的学習を身に付ける。				
授業概要	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と体の基礎をつくる重要な時期である。幼児期の運動発達における大人との相違について映像資料や事例を活用し、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。また、乳幼児期の子どもたちの健康に対する知識と発育発達について学ぶ				
授業計画	1. 乳幼児と健康 ・乳幼児期の心と体の発達と健康課題 2. 乳幼児期の諸機能の発達と健康課題 ・健康の定義と乳幼児期の健康の意義 3. 乳幼児期の体の発達的特徴 ・乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義 4. 乳幼児の安全教育に関する基本的な考え方 ・乳幼児の健康管理に関する基本的な考え方 5. 乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防 ・乳幼児の危険に関するリスク・ハザード 6. 乳幼児期の運動発達の特徴 ・乳幼児期の生活・遊びと安全管理 7. 乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義 ・日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮 8. 乳幼児の身体活動の在り方				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「保育内容 健康」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版) (フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもの指導法「言語表現」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。 乳幼児期の発達に応じた言語表現活動の指導法について述べることができる。言語表現活動をするための基本的な知識を身につけ実践することができる。				
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。				
授業計画	- こどもの言語表現指導法と指導案の作成 - 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 - 言語表現の指導法及び指導案の作成 - 児童文化財による乳幼児の言語表現活動 - 言語表現活動の意義と範囲 - 言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法 - 言語表現が豊かになる児童文化財の指導 - 絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 - わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点 - 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(1) - 絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法 - 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(2) - 絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成、模擬保育と評価方法・振り返り - 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(3) - わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 - 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(4) - わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法、模擬保育と振り返り - 年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「保幼小連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	公立小学校勤務(教諭・教頭・校長通算25年)、文部教官(9年)、教育委員会・教育センター(国語科指導主事等 通算16年)を歴任 ※上記の経験を持つ教員により、子どもの言語表現の指導法について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	造形表現論	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。 3. 乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。				
授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。				
授 3 業 計 画	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習 2. こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義 3. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの特徴と指導、援助、評価 4. えがく活動における形態・色彩の理論 絵画技法、製作内容と材料・用具 5. つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材（廃材）、製作内容と材料・用具 6. 造形あそびにおける各種表現技法、製作内容と材料・用具 7. 実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用 8. 美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめ				
成績評価 基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いて行う） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いて行う）				
使用テキスト等	「造形表現論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	こどもと体育	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。 《学習成果》 1. こどもが主体的に遊びに取り組める援助方法を習得する。 2. 演習で取り扱う運動遊びと成長発達の関係を理解する。 3. 運動遊びと運動機能・体力の関係を理解する。 4. 演習で取り扱う運動遊びを習得する。 5. 運動遊びを楽しく、安全に実施する環境づくりを学ぶ。 6. 運動遊びで培われる体と心、社会性を理解する。				
授業概要	発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。				
授業計画	1. オリエンテーション(講義) ①自然での遊び(水遊び、雪遊び等) ②戸外、森などでの遊び 2. 固定遊具の遊び ①すべり台、ジャングルジム ②ぶらんこ、シーソー 3. 遊具を使った遊びⅠ ①小さいボール、柔らかいボール ②大きいボール、様々なボール 4. 遊具を使った遊びⅡ(身近な遊具) ①フープ、輪、ロープ ②新聞紙、タオルなど 5. 大型遊具を使った遊び ①マット、平均台、跳び箱運動 ②複数の遊具の組み合わせによる運動 6. サーキット遊び ①小型遊具を組み合わせたサーキット遊び ②大型遊具を組み合わせたサーキット遊び 7. 身体の実現による伝承遊びⅠ(遊具を使わない) ①鬼遊び、わらべ歌など(小身体活動) ②ケンケンパー、馬跳びなど(大身体活動) 8. 身体の実現による伝承遊びⅡ(遊具を使った) ①おはじき、独楽遊び、お手玉遊び、けん玉遊び等				
成績評価基準	績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	音楽表現論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	感性と表現に関する領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付ける。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。また、子どもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的知識を身に付ける。さらに家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得する。				
授業計画	1. 領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程、音楽表現の基礎知識 ・音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解 2. 「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解 イメージを表現する為の音や音階の理解 3. 日本のこどもの歌と歴史的背景の理解時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析 4. 領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解 ・身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践 5. 保育実践における豊かな表現を引き出す援助(手法)のあり方についての理解 ・幼児用楽器の取扱いと正しい演奏法の理解と実践 6. 部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案 ・身近な自然や身の周りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実践 7. 乳幼児の音楽表現を可視化するための手法と理解 ・ポートフォリオなどを活用した保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音(コード)で表現する方法の理解と実践 8. 家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ ・園行事等での器楽演奏を表現豊かなものにするための理解と実践				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「音楽表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	保育実習Ⅱ	授業区分	実習	単位数	2
授業目標	保育所保育実習 2 回目で、乳幼児に対する理解、保育方法を基に積極的に子どもと関わり、保育方法、内容について更に理解を深め、積極的に実習に臨む。特に保育士の仕事等積極的に学ぶようにし、部分保育を積極的に行うようにする。 乳幼児との関わりを通して、こどもの気持ちを理解し、より良い援助の仕方を学ぶ。 保育者になる意識をもって積極的に実習に臨み、保育者としての意識を高めて欲しい。				
授業概要	保育所実習				
授業計画	保育所実習 実習期間 10 月～11月初め（10 日間） 実習内容 部分実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園での成績評価を基に総合的に評価する。				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 幼稚園教育実習簿(配本) その他、その都度資料を準備する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	保育実習Ⅲ	授業区分	実習	単位数	2
授業目標	保育所施設実習 2 回目で、児童福祉施設に暮らす子どもに対する理解、保育方法を基に積極的に子どもと関わり、保育方法、内容について更に理解を深め、積極的に実習に臨む。 特に施設種により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なるが、保育士の仕事等積極的に学ぶようにし、部分保育を積極的に行うようにする。 乳幼児との関わりを通して、こどもの気持ちを理解し、より良い援助の仕方を学ぶ。 保育者になる意識をもって積極的に実習に臨み、保育者としての意識を高めて欲しい。				
授業概要	保育所(施設)実習				
授業計画	保育所(施設)実習 実習期間 10月～11月初め（10日間） 実習内容 部分実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園での成績評価を基に総合的に評価する。				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 幼稚園教育実習簿(配本) その他、その都度資料を準備する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	保育実習指導Ⅱ	授業区分	実習	単位数	1
授業目標	1. 保育実習Ⅱの目的は、保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨くことにある。 2. 今まで大学で学習した知識をどのように使いながら保育をしていくのかを学び、実践力と専門性を高める。 3. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				
授業概要	保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で生かせるように準備する。 また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。				
授業計画	1. 保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の決定 2. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(1) 子どもの発達、5領域のねらいと現場での視点 3. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(2) 子どもの基本的生活習慣の獲得と保育支援 4. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(3) 遊びを展開するための知識等と環境設定の技術 5. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(4) 子どもの心に寄り添うとは何かについて 6. 保育知識と実習で身に付けてきてほしいこと(5) 環境構成の技術と人間関係構築の技術 7. 責任実習に向けての保育指導案の立案の仕方と実施のための留意点 8. 実習上の諸注意のまとめ(含む、保育者としての倫理、守秘義務、プライバシーの保護)				
成績評価基準	成績評価:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼稚園教諭(6年)保育所保育士(13年)認定こども園(主幹教諭等5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行う。実習の意義・目的を理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもちろん、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	保育実習指導Ⅲ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1.児童福祉施設における保育者の専門性について理解する。 2.児童福祉施設に暮らす子どもや親について理解する。 3.児童福祉以外の社会福祉施設について知る。 4.児童福祉・障害者福祉における保育者の役割等を理解する。 5.施設内の連携、他機関との連携について理解する。 6.実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				
授業概要	施設により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なる。自分の行く実習施設を中心に事前レポート、事後レポートなどで学習する。				
授業計画	1. 児童福祉施設の理解 ・施設の現状と問題点について 2. 社会的養護の現状について 3. 自分の行く実習施設を中心とした実習施設の現状と問題点 4. 児童福祉施設におけるこども支援、親支援の現状について(保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考える) ① 乳児院・児童福祉施設等への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際 ② 障がい（児・者）の障がい特徴と支援上の留意点 5. 社会的弱者の基本を知る (1)マライゼーションの意味を理解し、どのような支援を通して実践しているかを知る 6. 社会的弱者支援の基本を知る(2) 人権の保護とエンパワーメント（人権侵害とは何か）について知る 7. 個別支援計画と他機関との連携について 8. 事後指導における実際の総括と評価				
成績評価基準	成績評価:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼稚園教諭(6年)、保育所保育士(13年)、認定こども園(主幹教諭等5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行う。実習の意義・目的を理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもちろん、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	教育実習指導	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。 教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。				
授業概要	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。				
授業計画	1. 実習の意義と目的 ・幼稚園教育の特長 ・実習の意義と目的 ・保育者としての倫理(守秘義務 職務に専念する義務 等) 2. 教育実習の流れと手続き、その内容 ・実習生としての心構え ・事前相談・打ち合わせ 3. 観察・参加・責任実習 ・長期指導計画・短期指導計画 ・子どもを取り巻く環境(環境構成) ・幼児理解と保育 4. 教師の援助 ・保護者理解と支援 ・特別な支援を要する子どもへの対応 5. 実践演習 ・手遊び、読み聞かせ 6. 指導案作成(1) ・指導案とは何か 7. 指導案作成(2) ・指導案作成の実際 8. 実習の総括と評価、課題の明確化 ・幼児理解と学び ・保育者の活動からの学び				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる) ※事前指導指導で合格すれば、教育実習要件の1つ満たす。事後指導において、成績評価を行う。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員(教諭・校長 通算33年) 教育センター指導主事(5年) 幼稚園長(3年) ※上記の経験を持つ教員により、教育実習の意義と内容、教師の援助と環境構成、保育指導案の作成等について学ぶ。実習後は実習の総括を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	教育実習 I	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	マナーを守り、意欲的に取り組むこと。幼児の「前に立つ」ための準備をして、実習に臨むこと。実習日誌に、各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができること。幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できること。幼児の姿を観察し、場面の記録を描くことができること。				
授業概要	実際に幼稚園の生活を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。				
授業計画	実習期間 6月末～7月初め（10日間） 実習内容 観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園による評価及び実習日誌を、総合的に評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提とする。				
使用テキスト等	参考文献： 「教育実習事前・事後指導」（配本テキスト） 幼稚園教育実習簿（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	総合演習 I	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	乳幼児の保育・教育を総合的・分析的に学習してきた。その集大成としてテーマを設定し、論理化・実践化することを目指す。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	1.課題研究、作品制作とは 2.テーマ選択・設定① 3.テーマ選択・設定② 4.調査法 5.創造の方法 6.実習作業① 7.実習作業② 8.発表① 9.発表②				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	その都度資料を準備する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	音楽実技 I	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	保育の現場で活用できる、季節・行事・生活の歌を中心に弾き歌いが出来るようにするとともに、初見演奏、コードを使用しての伴奏づけの技術を高める。				
授業概要	各個人の基礎技術を確認しながら、応用へつなげていく。				
授業計画	（前期）・楽典・譜面の基礎 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 ・初見演奏の訓練（総合） 2.幼児の歌（ソルフェージュ） ・ソルフェージュの基礎 ・弾き歌いの応用 3.コード進行（基礎） 4.試験曲の決定 （後期）・楽典・譜面の基礎 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 ・初見演奏の訓練（総合） 2.幼児の歌（ソルフェージュ） ・ソルフェージュの基礎 ・弾き歌いの表現 3.コード進行（基礎） 4.試験曲の決定				
成績評価基準	・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲（①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い）				
使用テキスト等	「こどもと音楽表現」（配本テキスト） ・ピアノ演奏の基礎から技術的な向上を求めて、各自のレベルに合わせた楽譜 ・ソルフェージュの基礎力を高めるための楽譜 幼児のための音楽教育（教育芸術社） ・各自のレベルに応じた楽譜				
実務経験がある教員による授業科目	音楽教室講師（5年） ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ演奏、ソルフェージュ、弾き歌い等の演習授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	教育実習Ⅱ	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	マナーを守り、意欲的に取り組むこと。幼児の「前に立つ」ための準備をして、実習に臨むこと。実習日誌に、各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができること。幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できること。幼児の姿を観察し、場面の記録を描くことができること。				
授業概要	実際に幼稚園の生活を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。				
授業計画	実習期間 9月（10日間） 実習内容 部分実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園による評価及び実習日誌を、総合的に評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提とする。				
使用テキスト等	参考文献： 「教育実習事前・事後指導」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 幼稚園教育実習簿（配本）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	総合演習Ⅱ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	乳幼児の保育・教育を総合的・分析的に学習してきた。その集大成としてテーマを設定し、論理化・実践化することを目指す。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	1.課題研究、作品制作とは 2.テーマ選択・設定① 3.テーマ選択・設定② 4.調査法 5.創造の方法 6.実習作業① 7.実習作業② 8.発表① 9.発表②				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	その都度資料を準備する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども学科

科目名	音楽実技Ⅱ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	・「幼児の歌」が初見でも弾けるようにする。 ・コードを使用して、簡単な伴奏づけが出来るようにする。 ・簡単な初見演奏が出来るようにする。				
授業概要	・各自のレベルに合わせた個人指導によりピアノの演奏技術を高める。 ・テキストと「幼児の歌」を中心にした総合レッスン。				
授業計画	(前期) 楽典・読譜の定着 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏・初見歌唱 4.コード進行(応用) 5.試験曲の決定 (後期) 楽典・読譜の向上 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏・初見歌唱 4.伴奏法 5.試験曲の決定				
成績評価基準	・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲(①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い)				
使用テキスト等	「こどもと音楽表現」(配本テキスト) ・ピアノ演奏の向上のために、各自のレベルに合わせた楽譜 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・各自のレベルに応じた楽譜				
実務経験がある教員による授業科目	音楽教室講師(5年) ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ奏法、幼児の歌の弾き歌い等の演習授業を行う。				